

令和元年度 横浜市つたのは学園事業報告

令和元年度は、指定管理受託開始以降初めて定員数である利用者 50 名でスタートする事ができた。精神科への入院や主たる介助者の入院等、利用者やご家族の状況等の変化により関係機関との調整や家庭支援を含む個別対応の支援が多かった。また、平成 30 年度の 3 月に開所したグループホーム壺番館の入居者支援を委員会が中心にシグナルと連携をとりながら施設全体で行えたことも大きな特徴と言える。後半では退職者 1 名、体調面の不調等で療養休暇が必要になった職員や 3 月から産休に入った職員等異動の多い年でもあった。

指定管理受託時より配属されていた総務課長が 9 月 1 日付で法人事務局に異動となり、総務関係の仕事の分担の見直しを行った。

1. 事業の重要項目について

(1) 利用者の受け入れと安定した通所について

新年度より養護学校から 2 名の卒業生を新規に受け入れた時点で 50 名定員に到達したが、在籍利用者の内 1 名が精神面で不安定となり入院し、その後市外のグループホーム入居となり退所された。

通所が困難になっている方については家族や関係機関と連絡や会議をもちながら、通所が可能になるまでの支援を行った。1 名の方については福祉保健センターと連絡をとり対応を行ったが通所には至らなかった。

(2) 日中活動について

体制は利用者の障害特性や状況に合わせ 4 班構成にて活動を行った。

班体制はそれぞれに特徴や役割を持った 4 班構成とし、利用者個々のニーズ、障害特性や状況に合わせ提供した。

(3) 人権・権利擁護について

横浜ふくしネットワークに委員として参加した活動内容を職員会議で情報共有し意識向上に努めている。利用者については、例年通り「Y ネットセミナー」に参加し、権利擁護の勉強や他の施設との交流ができる機会とした。

また主観に偏らないよう、オンブズパーソンによる施設訪問で、日中活動の状況を見学していただいている。前期には新人職員との面談も実施され多角的な評価を頂いている。オンブズパーソンから出された意見や質問、感想、評価については担当委員や課長等が対応し、職員会議にて報告することで共有情報として日々の支援、活動に反映できるようにしている。

他の施設職員が実習で来る施設間交流も行い、他の施設の取り組みや当施設の状況等に意見をもらえる良い機会となっている。

年度末には、全職員に対して人権擁護アンケート・虐待防止チェックリストの実施を行った。結果については令和 2 年度に分析を行い当施設の課題を明確にしていく。

(4) 人材確保について

4 月よりタウンワークの求人募集及び職員の紹介を含め非常勤職員 5 名の雇用を行っている。また、送迎非常勤の方が 5 月末で退職されたため、2 名の採用を行った。5 月末に送迎非常勤の方が 1 名退職、12 月に常勤職員が 1 名退職、療養休暇が 1 名、自己都合での長期休暇が 1 名。3 月には常勤・非常勤職員の 2 名の職員が産休となった。そのため、令和 2 年度に向けて 4 名の職員採用を行っている。

人材確保のため、卒業校の大学のセミナーにて、職員 2 名が施設紹介を行った。

(5) グループホームバックアップについて

昨年度の 3 月よりオープンした「グループホーム壺番館」は、バックアップ施設であるシグナルと連携を取りながら委員会が窓口となり利用者の支援や通院や服薬管理等の医療面及びご家族との連絡調整を行っている。世話人との会議も実施し利用者の生活場面での情報共有に努めている。また、定期的に行われているシグナルのグループホーム会議にも委員会職員が交代で参加し状況把握を行っている。世話人と委員会との会議も定期的に行い情報共有と支援の方向性の確認をおこなった。

(6) 指定特定相談事業について

平成 30 年 4 月より実施している指定特定相談事業は、管理者が兼務で事業を行い計画相談を行っている。今年度は 1 名の職員が相談支援専門員の受講をすることが出来た。

(7) 地域との連携強化

地域の催事等にも積極的に参加し、長津田地区センターとは月 1 回の定期的な会議を行い、相互の情報共有を実施している。また、依頼により支援課長が地区センター職員に対する研修会を「人権と合理的配慮」をテーマに行った。緑区社会福祉協議会福祉等分科会防災部会にも参加しており町内会の活動にも協力している。

2. 管理面について

(1) 建物管理や環境整備については横浜市と連携を取りながら行っている。

8 月に行われた横浜市とのヒヤリングにて、経年劣化や利用者状況による環境整備の必要性を報告した。その中でも、利用者の精神安定を確保する場所として和室の改修工事の必要性を説明している。また長年の使用により劣化した園庭の補修が必要となり、業者による整地を行った。

(2) 人材育成については、専門性を高めるため、昨年度に引き続き「自閉症連続研修」に 2 名の職員が年間を通し担当として参加し、当施設で研修が実施された時は他の職員も参加した。

(3) 社会福祉協議会が主催する研修には、各職員の年齢や経験等に合わせて参加している。また、緑区内で行われている自立支援協議会にも部会ごとに担当を設け参加している。

昨年度より介護面での専門性を高めるため、理学療法士により月 1 回、介護技術や個々の利用者の介助方法を学べる機会を設けている。

職員による実習生に対してのセクシャルハラスメントと捉えられる言動があった。この件については、対象となった職員 1 名の問題ではなく当施設の職員全体の課題として捉える必要があり、再発防止に努めた。

12 月には事務局長による「対人援助者に求められる人権問題の理解」をテーマに人権研修を行なった。また、再度職員全体で法人理念、職員倫理綱領の就業規則の確認をした。

(4) 送迎体制については家族の高齢、負担軽減等の理由により週 3 回の自宅送迎と毎日 2 か所のポイント送迎を実施している。自宅送迎対象者は 48 名であり、多い時で片道 9 ルートとなっている。送迎時においては運転手の他に添乗員として職員 1 名が同乗している。現在はバスを含め公用車の台数は 10 台となっている。

(5) 9 月、3 月の年 2 回、長津田地区センターと合同の防災訓練を行った。地震を想定しての防災訓練を行い、避難の選択肢を増やすことを目的として今年度初めて地区センターの体育館へ避難する訓練を行った。

- (6) 福祉避難所としての貯蓄備品等を新たなものに交換し保管を行っている。また保管場所、倉庫等に関し管理や把握面から新規に検討する必要性がある旨を横浜市に伝えている。その他、緑区の福祉避難所連絡会にも参加し、緑区や各施設の情報交換を行った。
台風 19 号の被害状況を関係機関に報告した。
- (7) 職員の健康診断の結果、再検査を要する職員への通院確認と嘱託医による面談を行い継続し健康管理を行った。
- (8) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設内では出勤時の検温、手洗い、消毒等を実施し、職員に対しては私有車での通勤許可を行い感染防止に努めた。
厚生労働省から配布されたマスクについては職員に配布を行い、職員の感染疑いが出た場合の対応マニュアルを説明配布した。

3. 支援面について

(1) 利用者について

- ① 出席率は昨年度と比較して約 1.5 パーセント増となっている。これは、養護学校卒業の 20 代前半の方の出席が良いためである。しかしながら、40 代から 50 代の方の出席は下がっており、理由としては精神面での引きこもりやそれに伴う入院や服薬調整、また家族の高齢化や病気による通所の困難、短期入所利用等があげられる。具体的なものとして入院の方 1 名、長期欠席者 2 名、家族等の理由により通所できない方 2 名、他の施設へ並行利用者 2 名、また家族の病気入院の方 2 名がいた。
- ② 精神科に長期入院されていた方の他法人グループホーム入居が決まり 9 月 4 日付で退所された。
- ③ 利用者の日中活動の活性化を目的とし作業、製品開拓を行い販売手段拡大と並行して実施した。自主製品や受注量も増え、各利用者の参加する活動も増加と比例して充実度の向上につながっている。
後半には、下請け作業の準備としてボールペン組み立てを行い、不安定や他の活動に参加されなかった方が一定の時間参加できた。
また、個別支援が必要な方には毎月 1 回発達支援センターのアドバイスのもと個別支援プログラムを提供している。
- ④ 販売販路及び宣伝としては、共有ホールの販売棚の整理及び新たな地域の店舗及び法人内の事業所での販売を行っている。また一般向けに、製品や活動に特化した内容のパンフレットを掲示、配布し日々の啓発活動に繋げている。
- ⑤ 理学療法士による月 1 回の介護指導やリハビリの方法や指導を受けることができた。
移乗やトイレ介助・立位訓練法方法及び各利用者の補装具等の参考意見の指導を受け日々の支援に反映している。
- ⑥ 健康管理が必要な方も増え、医療機関への通院同行や機関との連絡調整が増えている
- ⑦ 長期にわたり入院され胃ろうになっていた方の支援を行いながら、週 1 日からの通所再開につなげることが出来た。引き続き関係者、医療機関との連絡を図り、ご家族の希望である週 5 日の通所に繋げていきたい。
- ⑧ 行動障害の男性 1 名の利用者については横浜市発達支援センターの協力を得ながら支援を行い再度プログラムの見直し・個別対応を実施したが、ご本人を取り巻く生活環境の課題から継続的な通所に至らなかった。その他の方については現在も継続的にアドバイスを受けながら支援を行いながら定期的に振り返りを行っている。また、年度末には家庭訪問も行いご本人・ご家族の状況を確認した。

⑨新型コロナウイルス緊急事態宣言では3月の時点で8名の方が自主的にお休みをした。

(2) 健康医務について

- ① 毎月第4木曜日に嘱託医による健康相談を実施し、前期は新規利用者のご家族との面談を中心に行った。
- ② 利用者、職員の健康診断も地域の医療機関の協力のもと6月14日に実施した。希望者には感染症等の項目を増やすことが可能となり、短期入所を利用する際での利便性に繋がっている。
- ③ 年1回の歯科検診は心身障害児総合医療療育センターの歯科医師によって9月に実施することにより、ご家族の口腔衛生に対する意識が高くなっている。また、歯科受診が難しい利用者については、みどりの家診療所歯科にて実施している。
- ④ ご家族への「ほけんだより」は利用者ごとに体重の変化が記入されたものが毎月発行されている
- ⑤ 胃ろうの方を受け入れるにあたり、嘱託医の三宅ドクターより「胃ろう」の施設内研修を実施した。

(3) 短期入所のバックアップについて

- ① 法人内の短期入所利用は毎年増えており、理由としては母親の入院の緊急対応、家族の高齢化や病気といった内容が主となっているが、将来の生活の場や自立に向けての意味合いも強く感じられた。
- ② 障害者支援施設偕恵の短期入所利用延べ人数は182泊の利用となっている。昨年に比べ約25件減っている。これは希望されている方は多いが偕恵の体制上利用が困難であった事があげられる。偕恵の短期入所を利用している方の日中活動はつたのは学園を利用しているため、朝夕の送迎及び入浴については当施設が行っている。初めて利用される方については、ご本人の状況により就床時までの支援を行った。
- ③ 母親の緊急入院時には他の短期入所事業所の利用時も送迎支援を実施した。
- ④ 偕恵いわまワークスとの短期事業連携システムでは1回の利用となっている。

4. 各事業について

(1) 生活介護事業について

4班体制とし、各利用者の特性等を含めて再編成を行った。班ごとに役割を明確に行っている。生産活動としては下請け作業や缶バッジを中心とした受注作業、陶芸や刺繍等の自主製品づくり、缶つぶし等のリサイクル活動や農耕活動、また、健康維持や体力維持を中心としたウォーキング、排泄・入浴支援等の活動を行っている。

発達障害の方、特に強度行動障害へ発展する可能性のある利用者に対しては、自立課題として個別課題と特性に合わせ構造化した環境を提供している。

収益については、年2回の工賃として支給している。前期工賃を(算定期間4月～9月末)10月10日に支給し平均金額2,640円となり、後期工賃(10月～3月末)は平均金額4,871円の支給をすることが出来た。

(2) 日中一時支援事業

日中活動の週一回の定期利用登録者は1名となっている。また、16時以降の利用者は延べ回数164回の利用となっており、昨年度より61件の減少となっている。減少理由として昨年度は家族の入院等で利用する方が多くおられたことがあげられる。また、利用時間については、18:00位までの方が多く利用時間によっては入浴サービス提供も行っている。

(3) 相談支援事業

現在 15 名の方の計画相談を実施している。管理者が兼務業務で行っているため、人数に限りが生じてしまっている。つたのは学園の利用者で計画相談に繋がっていない方が 12 名いる。家族から希望が出ている方や区の担当ケースワーカーより相談されている方も今後状況を見ながら徐々に行っていく。

5. 行事について

(1) 利用者旅行について

今年度も昨年度と同様に公用バスを利用しての小集団での旅行とした。7 グループに分かれ、各グループ利用者・職員の総数 10 名から 12 名での実施となっている。少人数であるため、より利用者のペースに合わせて行動することができた。

今年度の企画としては、利用者の希望を取り入れられるようにアンケート方式で行った。

(2) 食事会について

今年度も小グループでの実施を行っている。利用者にメニューを見ていただきレストランを選択できる方法で行った。年々バラエティーに富み人気の活動となっている。

(3) プール活動日

毎年、横浜市立長津田小学校のプールを借用してプール活動を実施している。令和元年度は 5 日間の利用可能な日数があったが、参加人数も増えていることから利用者が 2 日間ずつ体験できるようにした。また、ライフジャケットについては、日本財団より無償で借用した。

(4) つたのは祭り

今年度は横浜市立長津田小学校の新校舎増設工事に伴い、日程は 10 月の第 2 週の土曜日の開催となった。新たな試みとして「利用者中心参加型」のお祭りとした。毎年家族会が販売する物品やその他の販売や宣伝チラシまき・スタンプラリーの印鑑押し等を利用者が中心に行い、利用者の新たな一面を見ることが出来、ご家族の方も楽しまれていた。

(5) クラブ活動

毎月 1 回午後の時間を利用して活動を行っている。今年度は新たに球技クラブとボランティアクラブを作り 6 つの企画にて利用者の希望を取り入れながら行った。

(6) もちーふへの参加

長津田ケアプラザで家族会有志による月 2 回の喫茶店にお客として参加している。各利用者が好きな飲み物等を注文し、楽しい時間を過ごすことができている。

6. 家族・家族会について

家族会は月 1 回実施され毎回約 15 名のご家族が参加されている。横浜市の担当職員も出席し新しい制度の情報提供を行っている。学園からは施設の活動や利用者の状況、法人の動き等の情報提供をしている。

7. 地域の連携と交流について

(1) ボランティアの受け入れ

① 定期的な作業ボランティア

手芸ボランティア 3 名が週 1 回、横浜市のシニアボランティア制度を活用して来てくださっている。さらに 11 月より新しく 4 名の方が加わり活動内で制作したものを縫製し製品化している。

② イベント参加企画ボランティア

- ・ あすなる会・・・年1回地域の中学校及び地域の方による音楽演奏。
- ・ アニマルセラピー・・・年2回の実施。3月に行われる予定であったが、新型コロナウイルスで中止となった。

③ ヘアカットボランティア・・・5月に1回実施している。

(2) 施設開放利用

当施設が活動を行わない土・日・祝祭日を「施設開放日」とし地域の方にホール及び園庭を開放している。少年野球・少年サッカー・吹奏楽部・コーラス・民族楽器演奏部等の7団体が利用している。当施設の10月に行われる「つたのは祭り」にはこの団体の方々がボランティアとして演奏をしてくださり交流を図っている。4月には、園庭の桜の花が満開になる頃に園庭開放を行った。地域の方々や保育園の園児たちも訪れ、ひと時を楽しんだ。地域の保育園より5月に運動会練習の園庭利用希望があり貸出も行った。また、NPO 法人認知症フレンドシップクラブが行う認知症の方がマラソンをする「RUN 伴」にも園庭及びホール・備品の貸し出を行った。

3月からは新型コロナウイルス感染拡大防止の為、施設開放を中止とした。

(3) 「ココロはずむアート展」への参加

NPO 法人スペースナナが主催で行われる「障がいのある方たちの、アート作品発表展：ココロはずむアート展」に当施設より4名の方の絵画や作品を出展した。他施設との交流の機会となり施設間や職員同士の繋がりを作ることができている。

(4) 「災害時の回覧板を使用した取り組み」

この取り組みは緑区内の福祉施設の企画であり、今年度の第1回目の回覧が7月に実施された。目的は災害時の情報把握と協力体制の情報共有である。

(5) 施設主催による地域の方参加型の「手話講習会」を実施した。この研修会は「神奈川県手話推進計画」によるもので、講師派遣から講師費用まで神奈川県が負担する企画となっている。内容は手話講習のみならず、聴覚障害者への理解を含めた研修となっていた。地域の方にも宣伝を行ったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設内職員のみとなった。

(6) 地域のイベントへの参加

毎年行われている、森村学園の文化祭に利用者と共に参加し、自主製品の販売を行った。長津田地区センター主催の「子供向けのディキャンプ」に職員が参加協力を行った。

令和元年度 横浜市つたのは学園 諸状況について

令和2年3月31日現在

1. 入退所の状況

入 所	入所年月日	入所前所属	退 所	退所年月日	退所後所属
女性	平成31年4月1日	養護学校	女性	令和元年9月5日	GH入居
男性	平成31年4月1日	養護学校			

2. 援護実施機関について

市内9区より通所中。市外は町田2名、大和1名。

区	旭	泉	金沢	港南	港北	栄	瀬谷	鶴見	磯子	戸塚
男	1	1	0	0	1	0	4	0	0	0
女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
計	2	1	0	0	1	0	5	0	0	0
区	中	西	保土ヶ	緑	青葉	南	都筑	神奈川	市外	合計
男	0	0	1	8	17	0	1	1	2	37
女	0	0	0	4	5	0	0	0	1	12
計	0	0	1	12	22	0	1	1	3	49

3. 年齢について

平均年齢 33.34 歳

	20未満	20～29	30～39	40～49	50以上	合計
男	1	22	2	5	7	37
女	1	6	2	2	1	12
計	2	28	4	7	8	49

4. 障害支援区分について

生活介護事業 区分平均 5.2

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
人数	0	0	0	10	19	20	49

5. 療育手帳の状況について

	A1	A2	B1	B2	2度	3度	合計
男	25	7	1	2	1	1	37
女	6	1	2	2	1	0	12
計	31	8	3	4	2	1	49

A1～B2 神奈川県療育手帳の区分
2度, 3度 東京都愛の手帳の区分
(2度が概ねA2、3度がB1に該当)

6. 身体障害の状況について

部位	視覚	聴覚	上肢	下肢	体幹	四肢
人数	1	0	1	3	1	2
等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	0	4	2	1	1	0

7. 在籍年数について

	1年未満	～2年	～3年	～5年	～10年	10年以	合計
男	2	3	5	6	11	10	37
女	2	1	0	2	3	4	12
計	4	4	5	8	14	14	49

8. 利用者の出席率について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
稼働日	22	22	21	23	21	20		
出席率	80.3	77.4	79.3	78.3	76.4	78.4		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	出席率
稼働日	23	21	21	20	19	22	255	
出席率	83.0	84.2	82.0	81.8	82.7	80.8		80.4

※利用者登録者数に対する出席率

9. 日中一時利用の利用状況について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	24	26	22	35	29	28	24	29	31	23	22	10	303
人数	8	11	9	12	11	10	7	9	9	9	10	6	111

前年度比 36 件減

10. 短期入所連携システムの利用状況について

(偕恵)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泊数	33	36	35	28	26	24	33	34	30	22	20	22	343
人数	16	14	15	13	13	13	14	17	14	12	13	12	166

前年度比 34 件減

(偕恵いわまワークス)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泊数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
人数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

前年度比 12 件減

11. 教育実習生等の受入状況について

- ・ 横浜市立市ヶ尾中学校福祉体験：4名、横浜市立谷本中学校：2名
- ・ 専修大学 1名 ・ 東京未来大学 2名 田園調布学園大学 1名 (相談実習)
- ・ 田園調布学園大学こども未来学部 1名 聖ヶ丘教育福祉専門学校 1名
- ・ 横浜市採用職員研修 1名

12. 養護学校生校外実習等受入の実施状況について

- ・ 麻生養護学校：1名、みどり養護学校：2名

13. 苦情・事故報告について

【事故報告件数】

	骨折	誤嚥	所在不明	触法行為	食中毒	感染症	転倒転落	怪我	その他	合計
令和元年度	0	0	0	0	0	0	1	0	5	6

※事故報告は通院、公用車は保険使用のみ。危険行為での眼鏡破損

【ヒヤリハット件数】

	怪我	誤嚥	所在不明	触法行為	食中毒	感染症	転倒	危険行為	服薬	その他	合計
令和元年度	2	0	10	0	0	0	0	34	3	32	85

※所在不明は未遂（職員が公共機関に同乗。散歩中に急に走り出す等）

その他：連絡帳の渡し忘れ。洗剤を頭からかぶる。給油カード紛失未遂 送迎関係 他害による擦過傷等

【苦情】 苦情相談受付：

- ・日中活動支援内容について 1件

14. 施設内・外研修について

- (1) 施設外研修 20回 (延べ 42人)
- (2) 自閉症連続研修 12回 (延べ 12名)
- (3) 発達支援センター 11回 (延べ 35名) ※支援方法、状況確認、助言等
- (4) 理学療法士による指導 9回 (指導利用者延べ：32名)
- (5) 施設内研修

- ・胃妻について 講師 嘱託医三宅 Dr
- ・尊厳というかけがえのない人権 講師 村岡事務局長
- ・支援員に求められるもの 講師 荒井施設長
- ・聴覚障害者を理解する 講師 神奈川県聴覚障害者連盟
～手話を学ぶ～
- ・意思決定支援を学ぶ 報告 岡崎看護師
- ・受給者証について 報告 花岡主任
- ・短期入所、日中一時支援事業 報告 佐藤主任
- ・シグナルグループホーム・壺番館 報告 渡辺主任
- ・自閉症研修1年間を通して 報告 梶原・佐藤主任
- ・支援の原点 報告 中村支援員

(6) その他

「人権擁護の基本姿勢」「あおぞら宣言」等小冊子を基に勉強会の実施